

第12回 「道の駅」第3ステージ推進委員会 議事概要

令和6年12月3日

○議事（１）「道の駅」第3ステージの最近の取組

（評価室より資料1について説明。）

【根岸委員】

- ・宮崎県内でもリニューアルの声が多い。応援パッケージがまちぐるみのまちづくりをして契機になることを期待をしたい。
- ・応援パッケージでは各関係省庁との連携が非常に重要である。小さい自治体は国との調整に不慣れなことが多く、国土交通省の調整があると事業が進めやすくなるのではないかと感じた。
- ・道の駅「都城NiQLL」で開催されたリレー防災セミナーでは、「防災道の駅」を拠点として、どのように防災の取組をしていくかについて議論が行われ、「道の駅」と地域住民が防災の観点でもどう連携していくかが重要ではないかといった声もあった。
- ・ボランティアの取組と「道の駅」のつながりも応援いただけるとありがたい。

【楓委員】

- ・応援パッケージの要件について、駅長は指定管理などの受託企業のいち従業員というケースも多い。受託会社がまちぐるみというコンセプトを理解することも重要である。
- ・現場での広報も道の駅の発展には重要であり、広報に対する支援も視野に入れてもらえるといい。
- ・道の駅「あらい」が防災拠点として重要な役割を担えたのは、発災の直前にセミナーをしていたからであり、情報共有と備えの重要性を再認識すべきである。

【山田委員】

- ・応援パッケージの要件である「リニューアル」という言葉には幅があり、「道の駅」側がどう捉えるかが懸念される。
- ・中山間地域の「道の駅」の中には、都市近郊の「道の駅」にはない、中間支援組織のような役割を持っているところもあり、認定されると中山間地域の「道の駅」のモデルになるのではないかと。福祉や教育に特化した取組をしているような「道の駅」が応援パッケージに申請できるようになるといい。

・応援パッケージでは、選ばれた「道の駅」の成果を検証して公表するところまで含めて支援をしていただきたい。

【徳山委員】

・リニューアルという言葉は確かに幅があり、第3ステージをきちんとやろうとしているパッケージだと分かるように記載したほうがいい。

・今までは重点化や認定が目標のようにになっていた側面があるが、「防災道の駅」や応援パッケージは、選定されたところがスタートで、そこから取り組みが始まるような仕組みとなるといい。

・全国道の駅連絡会が、主体的に第3ステージを育てるチームや協議会などを動かしていくことが重要ではないか。

【国崎委員】

・応援パッケージにも防災の視点が入ってくると良い。

・能登半島地震の際は「道の駅」ではトイレが使えなくて難儀していた。災害時の断水の際もトイレが使えるといった設備の設置は必須であるというような支援内容もあるといいのではないか。

・「防災道の駅」ネットワークは、いざというときにしっかりと機能するよう、日頃から災害が起きたら即座に動けるような体制を構築しておくべきである。「防災道の駅」を実働としてネットワークを組めるかという視点が重要である。

【篠原委員】

・防災は具体的な内容が見えてきているが、観光は非常にアバウトであり、何を具体的に支援しながら「道の駅」と新たな観光の関係をつくるか見えづらい。支援内容に観光の再生や着地型の観光コンテンツの支援などが入ってくると良い。

・地域資源を生かした着地型のツアーコンテンツが重要で、インバウンドと接点がない「道の駅」も使えるような仕組みづくりが必要である。観光庁の事業を活用するためのセミナーなどを連絡会に主催していただくことはどうか。

【豊田委員】

・外国の観光客が来ているときに災害が起きた場合、どのように情報を共有していくのが重要である。関係省庁のどこが担当し、どのように応援して「道の駅」とつなげていくのかを応援パッケージの中で考えておく必要がある。

【石田委員長】

・「まちの目標、目指すべき姿」は、総合計画や都市計画マスタープランといった上位計画に具体的な根拠を求めるべきではないか。今回の応募時に取ってつけたように作文されるのは良くないだろう。

・各省、各課が持っている地域支援のパッケージはたくさんあるので、それらを見やすく、分かりやすくするのが重要である。ノウハウ提供について、各省も対応には限界があるため、全国道の駅連絡会のノウハウや働きかけが大事になる。

・道の駅「あらい」で行われた支援についての知恵の共有や蓄積、承継は道の駅連絡会の仕事だと考える。人事異動などで経緯が分からなくならないように、蓄積と継承のための具体策が必要。

○議事（２）情報提供施設等の規定の見直し

（評価室より資料２について説明。）

【根岸委員】

・防災拠点としての「道の駅」と自治体の関係性を構築していくことが求められる。

【山田委員】

・「道の駅」の大型モニターの前に立っている人や交通情報やパンフレットを手にする人は少なくなっていると感じるため、要綱の見直しは必要であると考え。一方で、中山間地域の「道の駅」で、関係人口を増やす目的で移住定住の相談や観光の案内を対面で実施している例のように、一律にデジタルや省人化に向かうのではなく、必要なところに必要な人材を配置することが重要ではないかと考える。

【楓委員】

・情報提供施設ではWi-Fiが使用できるが、地域振興施設では使用できないという例もある。Wi-Fi環境は「道の駅」一体として整備を進めていただきたい。

【豊田委員】

- ・日本を訪れた観光客が１番驚くのはWi-Fi環境がないことである。
- ・まずはWi-Fi環境を整え、そして災害時にはどのように情報提供するかが重要である。

【徳山委員】

・今後は、観光窓口や移住窓口、役所の一部、インバウンド向けの施設など、第3ステージにふさわしい新しい機能の施設が整備できるように、要綱においても考えてもよいのではないか。

【石田委員長】

・「道の駅」にもマンパワーの限界があるため、どう見極め、あるいは個別に「道の駅」とどう相談するかということも必要だと考える。

・観光DMOや移住定住の窓口などは省庁連携がポイントになる。例えば、移住定住窓口の人に観光案内をさせるのは難しいと思うが、そこを視野に入れて観光庁と厚労省が施策連携できると良い。

【国崎委員】

- ・トイレについて、災害時にも対応できることが望ましいと記載しても良いのではないか。
- ・Wi-Fiは必須だが、充電スポットの整備の充実も必要である。
- ・BCPなどのマニュアルや計画にはあまり実効性がないという考えもある。初動を確実にする対策が加わると良い。

○議事（3）全国道の駅連絡会からの報告

（全国道の駅連絡会より資料3について説明。）

【徳山委員】

・全国道の駅連絡会の役割は、地方ブロック連絡会ができないことをやることと、民間の力を入れていろんなことをやっていくという2つ。

・第3ステージにおいて連絡調整だけでない役割を担うべきではないか。SNSや駅長会にとどまらず、実効性のあるネットワークをつくるためにはどうしたらよいかを是非考えてほしい。

【根岸委員】

・今はまさにビッグデータの時代であるため、集めたデータを活用して「道の駅」の改善に動いてもらうような取組があってもいいのではないか。利用者の声を集約して、「道の駅」全体をレベルアップするような仕掛けがあったらいいと感じた。

【石田委員長】

・個々の「道の駅」への期待も高いが、「道の駅」全体の発展のため、全国道の駅連絡会への期待も大きい。

— 了 —